

「海のふるさと館」を黄金岬に

「海のふるさと館」の建設や周辺の環境整備など高台開発の工事がはじめます。周辺の住民のみなさんは当然のこと、市民

や観光客の皆さんには大変なご迷惑をおかけします。留萌市の将来計画を実現するためご協力をお願いします。

「海のふるさと館」主な工事の予定

工事内容	月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
本体工事									
石垣工事									
車庫等解体									
道路切替工事									
公園改良工事									
駐車場工事									

ご迷惑を
おかけします



再開発される黄金岬高台

黄金岬の開発は、第一段階として岩礁地帯の整備がすでに進められていますが、今後の課題は背後の高台の再開発を進めることです。

たしかに、住宅地として市営住宅や民家がありますが、岩礁地帯を中心に雄大な海の景観を展望できる高台の効果的な活用、つまり、恵まれた観光資源を最大限に活用してまちの活性化をはかる必要があります。

付近にある市営住宅が、法

律で定められた耐用地数がおわる四・五年後の将来的なビジョンを持つことでも大事なことです。一方では、現在解決しなければならない課題がされることも考えて、計画を進め必要があります。

「海のふるさと館」の建設は、「学習の場・情報センター」としての役割を持つものですが、観光地でもある地域性を施設に取り入れた、黄金岬の「拠点施設」として建設される、高台再開発の中核的な事業の一つです。

もちろん、高台の再開発は施設をつくると同時に、岩礁地帯との一体的な整備が必要となります。これからは、このお互いの地区が、一つの地区として活用されよう工事が進められます。機的に利用されると言うことが少なかつたと言えます。

①「海のふるさと館」を、黄金岬の高台と岩礁地帯との中核施設とし、岩礁地帯からの遊歩道との出入口も施設に取り込み、高台と岩礁地帯との相互利用が、違和感なく行われるようにします。

②岩礁地帯と高台の緑地を大きく分けますと、次の三

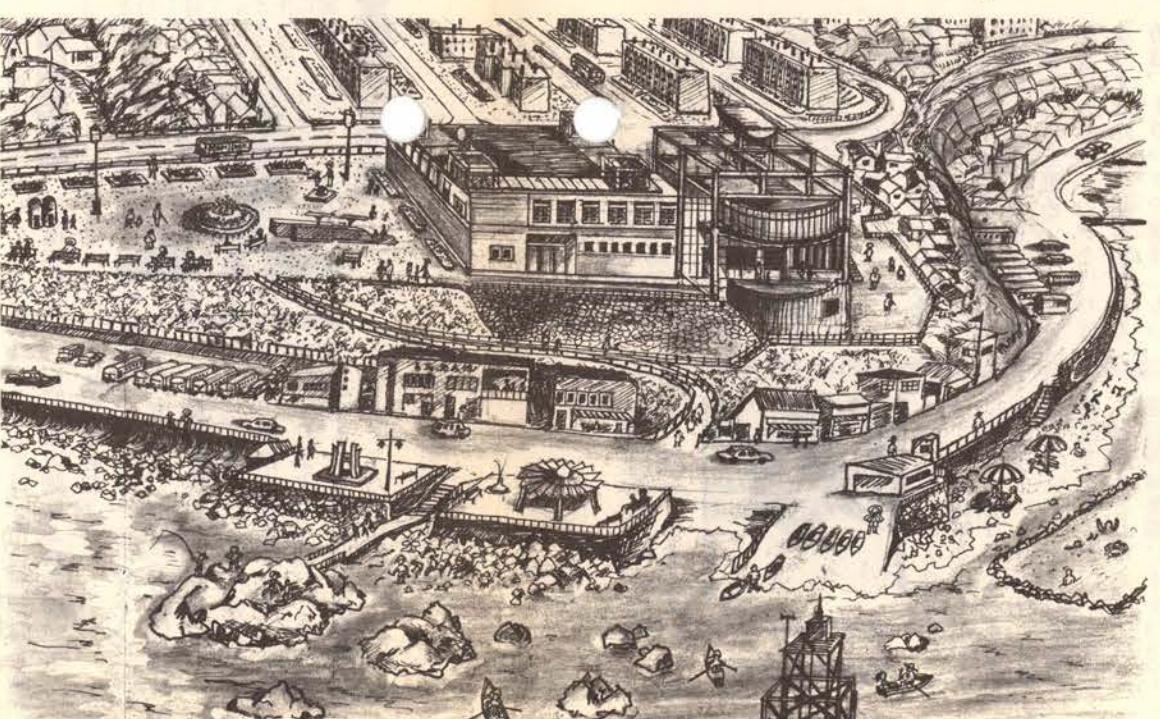
つまり、これまで岩礁地帯と高台が、遊歩道で結ばれてはいても、お互いの地区が有機的に利用されると言うことがあります。このため、今回の開発には、このお互いの地区が、一つの地区として活用されるよう工事が進められます。

切っていた道路を廃道とし、公園緑地として整備することにより、遊歩道と高台緑地を直接結び、崖も緑地化し岩礁

完成しますと、道路一本をへだてて緑地と岬、つまり高台と岩礁地帯が一つのレクリエーション・ゾーンとして、多様な遊びと憩いの場としてご利用いただけると同時に、これまでの展望のよい場所が、これになります。

地帯と高台の一体感をはかります。高台から岩礁地帯に通ずる車道を、公園緑地化したことにより、岩礁地帯へは団地内道路から直結した道路に切り替えます。

黄金岬を再開発し 海洋性観光の拠点に



黄金岬高台再開発後のイメージスケッチ

いろいろな展望の場所
いろいろな入口・通路
いろいろな展示の場所
「海のふるさと館」は、展望について、いろいろ工夫しています。
一階には、海の風景を見る
われた施設づくりをします。
このため、施設全体が観光施設として価値を高めるよう
外観や内部の構造に到るまで

いろいろな展示の場所
「海のふるさと館」は、展示について、いろいろ工夫しています。
一階には、海の風景を見る
われた施設づくりをします。
このため、施設全体が観光施設として価値を高めるよう
外観や内部の構造に到るまで

ガラス張りのロビー、二階には海に面した総ガラス張りの展望ラウンジ・レストラン・売店があり、とくに二階の「展望ラウンジ」は海に向かって、曲面に突き出した大きなガラス越しに、暑寒連峰から天売・焼尻島を望む海のパノラマや、岩礁地帯と落陽、南防と波濤など四季おりおりの自然のドラマが体験出来ます。

さらに、屋外には一、二階に展望テラス、階段を昇つて屋上の展望テラス、階段を昇つて、曲面に突き出した大きなガラス越しに、暑寒連峰から天売・焼尻島を望む海のパノラマや、岩礁地帯と落陽、南防と波濤など四季おりおりの自然のドラマが体験出来ます。

現正在ある岩礁地帯の遊歩道から直接「海のふるさと館」の一階ロビーへ通ずる入り口や、二階への展望ラウンジやレストランへの入館には一階ロビーからだけではなく外部からも自由に入りができるよう、外部階段が用意されています。

海に面したレストランは、海や夕陽を眺めながら、家族づれ恋人たちの憩いの場所として気軽にご利用いただけます。